

南の風 281

南部ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

ちょっと時間が経ってしまいました。8月の上旬に、『AL SOKぐんまアリーナ』でおこなわれた関東大会のゲームです。神奈川県からは、男子「原、大谷」女子「相模女子、鶴ヶ峯」が出場しました。

観戦したゲームを戦評風に紹介します。

鶴ヶ峯（神奈川） vs 東京成徳（東京）戦です。

鶴ヶ峯は、ドライブからアウトサイドへのキックアウトパスを中心に攻める。特に4番の3Pは確率も良く、得点源であった。東京成徳は、立ち上がりからオールコートマンツーマンディフェンスで圧力をかける。また、一つのクォーターの中で、5人すべてを交代させるタイムシェアを有効に使いながら相手のミス誘う。ドライブインやステップインシュートなど、個のオフェンス力は鶴ヶ峯が勝り、終始リードしながらゲームが進む。しかし突き放そうとすると、東京成徳のトラップやパスカットに引っ掛かり、接戦でゲームは進む。また、鶴ヶ峯のオフェンス、リバウンドの要である5番が4ファウルとなり、ベンチに下がった。その隙に東京成徳は、点差を縮める。

第3Pを終わり、48対46で鶴ヶ峯がリード。

第4Pに入り、お互いオールコートプレスディフェンスを掛ける展開。一進一退の中、東京成徳は相手のパスミスやリバウンドミスに乗じて、57対54とこの試合初めて逆転する。さらに5番の3Pで点差を広げる。ここで鶴ヶ峯がタイムアウト。その後、鶴ヶ峯は4番、6番が立て続けに3P決め1点差に詰め寄り、激しいプレスを仕掛けるが、東京成徳は冷静にボールをキープしてタイムアップ。最終スコアは、64対61であった。

我々横浜の人間は、「残念、あと一歩だった。」という思いでした。鶴ヶ峯の選手には、「最後まで全力を尽くしました。お疲れ様でした。」と伝えたいと思います。

全体の流れを振り返ると、東京成徳の試合巧者ぶりが目立ちました。感じたことを書きます。

その一 際立った選手はいないのですが、ディフェンスの5人の連携が見事でした。何処でプレスを掛けるのか。その時のそれぞれの役割分担は何か、ということを一一人ひとりが熟知し、ゲームの中で表現できていました。（トラップ&パスカットのタイミング等）

その二 リバウンドのタイミングが絶妙でした。常に「リバウンドに参加する」と言う姿勢、ボックスアウトを確実にすることなど徹底していました。

その三 マンツーマンのノーミドル（ラインディレクション）を全員が理解し、ヘルプ&ローテまでの関係が見事でした。

その四 ゲームの結果云々ではないのですが、東京成徳の選手は全員がシュートを片手で打っていました。リングに届かない選手もたくさんいました。フリースローの確率もたいへん悪かったです。それでも片手で打っていました。また試合前の3Pの練習を、控えの選手（1年生も含めて）も片手で打っていました。結果を度返しした、将来を見据えての徹底でした。選手及び指導者の『信念、また覚悟』を感じました。